

「身の回りを化学の目で見れば」に参加して

✍ 佐々木恵子

10月とはいえまだ夏の暑さの残る昼下がり、講義室に急いで、通路から中をのぞくと何と調理室。間違えたかと尋ねてみると、今日は実験をしますからとのこと。調理室転じて理科実験室、もう忘れかけていた学生時代の記憶がふとよみがえります。それぞれの調理台には何処の家にもあるようなラップや卵ケース・スーパーのトレイなど、プラスチック類が何種類も置いてあり、講義の始まりを待つばかりでした。

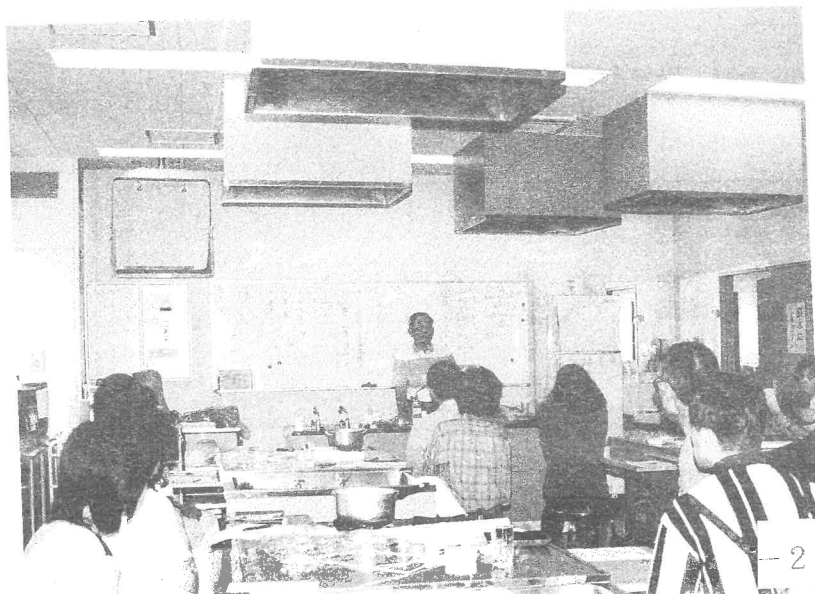
冒頭、加藤先生は化学を身近に分かりやすく、一般の人に講義をされる動機をお話しになりました。例えば今時の学生にクリーニングを化学して話そうとすると、洋服をクリーニングに出しても、クリーニングがどういうものか知らないから、一から説明しなければならない。そこで、日用品として化学製品や化学薬剤を選んだり使ったりしている人、主婦などを対象に、私達が身の回りで使っている化学製品がどんなものなのか、お話しをすることにしました。化学は生活と密接に関わっており、ダイオキシンなどの環境問題を考えるきっかけになったり、また、生活の中で役立つ生きた化学として化学に親しんでいただきたいとのことでした。

一つ目の実験は銅の針金をガスコンロで熱してプラスチックを溶かしつけ、もう一度火にかざして緑色の炎が出れば、ダイオキシンの原因となる塩素を含むプラスチックだということでした。銅と塩素が反応してできた塩化銅が発する色だそうです。いくつもの種類から緑の美しい炎が見られました。

健康住宅や自然農法に関わり、昨今の環境を憂えている私としては、プラスチックというものは大体において悪者で、身近から少しずつ減らそうとして、無くしきれない必要悪と考えていました。しかし改めていろいろなプラスチックに触れて、燃やしたり、お湯に入れたり、伸ばしてみたりすると、何だか愛着さえ感じます。プラスチックはそれ自体がいろいろ特性を持つ子なのだ。その性格を知ってどう使うかは使う人の問題で、良いものにするのも悪者にするもの使う人次第なのだと思えて考えさせられました。

私達の身の回りにはたくさんの種類の化学製品、プラスチックが溢れています。それらは生活を便利にするものとして、使い方までは気にかかるけれども、大方私達はそれ自体が何

かなんて難しく知ろうとする事さえ放棄しています。物や生活や命にもう少し愛情が持てれば、物の本質を知って身近な事をもっと大事に出来るのだろうと思います。より多くの特に若い人達に先生のセミナーを受けて欲しいと思いました。楽しくて充実した時間をありがとうございました。



ダイオキシンについて

✍ 加藤 俊二

一般にダイオキシンと言われている物は、互いに似た化学構造と作用をもつ 222種の化合物の総称で、正しくはダイオキシン類と呼ぶべきものです。そのなかで最も毒性の強いのが「テトラクロロ-ジベンゾ-ジオキシン(以下Dと略す)」で、これがダイオキシン類の代表とされています。

焼却炉などから発生する有毒物には多種類のダイオキシンが混在していますから、ダイオキシン何ピコグラムという数値は、各化合物それぞれの量を、それと同じ強さの毒性を示すDの量に換算した値の合計です。

ところで、どんなプラスチックを燃やしてもダイオキシンが出るという訳ではありません。ダイオキシン類はすべて塩素を含んだ化合物ですから、塩素を含まない物質を燃やしてもダイオキシンは絶対に発生しません。そして一般に出回っている20種以上のプラスチックのうちで塩素を含む物は、ポリ塩化ビニル(水道管・雨樋・ビニールホース・電線の被覆など)と塩化ビニリデン(サランラップ・クレラップ)だけで、一番多く使われているポリエチレン・ポリプロピレン・ポリスチレン(発泡スチロールを含む)は塩素を含んでいません。

次にDの毒性は今ある人工物中最高で、その致死量はマウスで調べてみると体重1kgにつき約0.3ミリグラムです。これはサリンの2倍、青酸カリの1000倍になります。また一生涯毎日摂取し続けても全く何の異常も起こらない量を求め、その1/100くらいを耐容1日摂取量としますが、それはDについて体重1kg当たり1~10ピコグラムと発表されています。

ここで、1ピコグラムは1兆分の1グラムのことです。これではちょっと見当がつかかぬますが、米粒1個の10億分の1、又はバクテリア1匹の重さくらいと言えれば納得できるでしょうか。

ダイオキシンが危険な理由の一つは、新陳代謝されにくく体内の脂肪の中に蓄積され、なかなか排泄されないことです。これは、生物が過去においてダイオキシンを経験したことがなく、生体がそれに対する対策を全く持ち合わせていないからです。例えば、水銀やヒ素であれば、天然に広く分布しているものですから、生体はその対策を心得ていて、少量ならばこれを毛髪の中に封じ込めて捨ててしまいます。

以上、一般の方にも理解できる程度にダイオキシンについての解説を試みました。これだけでも心得ていれば、各種の報道に接したとき、むやみに怖がったりパニックに陥ることはないでしょう。

私はダイオキシンの専門家ではありませんが、疑問がありましたときには、下記へご連絡ください。知っている範囲でお答えします。

(☎ 06-6872-6248 20時~23時)

ヒメボタルにハマってしまった

塩田 敏治

昆虫の和名には、頭に「ヒメ」と付くものが多く居ります、この名の付いた昆虫は同じ種の中でも「小型」か「可愛い感じ」のするものに多く、「ヒメボタル」もご多分に漏れず「ゲンジボタル」や「ヘイケボタル」に較べ、一回り小型で体長は5ミリ前後から9ミリ程度しかありません。

童謡の歌詞に「アッチの水は苦いゾ」「コッチの水は甘いゾ」とあるように、ホタルは清流に住んでいるように思われがちですが、「ヒメボタル」は水と関係の無い陸棲のホタルで、生れてから一度も水の中で生活する事はなく、幼虫の時も陸棲の貝類（オオチョウジガイ他）を餌にして成虫となります。



世界には2000種のホタルが居ると言われていますが、生涯の一時期を水の中で生活し、水棲の貝類（カワニナ等）を餌にするホタルは数種類しか居りません、そんな意味で「ゲンジ」や「ヘイケ」は特異な存在と言えるかも知れません。山村育ちの私にとってもホタルは「ゲンジ」や「ヘイケ」で六月初旬頃、夕暮を待ち兼ねて麦秋の田圃を走り回り、「蛍狩り」をして遊んだ相手もこれでした。

昨年早春に誘われて、川西市で開かれた「ホタルサミット」に参加したのがキッカケで「ヒメボタル」と深く係わるようになり、それ迄の「ヒメボタル」に対する知識は、お粗末なもので、七月初旬頃、田植えの終わった棚田の上を、シーズンに遅れて出て来て、忙しげに飛ぶ「チッコイ蛍」程度で、たしか「幽霊ボタル」と呼んでいた様な記憶があります。

「吹田にヒメボタルが居る？」しかも我が家の近くの公園に多数居る、「ホタルサミット」で聞いた知識を基に、今年の五月から始まった観察に参加しました。

「ウンこれは！」黄金色に近い蛍光で小さいが強い「閃光」を公園（千里山田緑地）で見た時、星の瞬く高空を行くジェット機のフラッシュライトの様で、印象に残り、「忙しげに飛ぶチッコイ蛍」の記憶はフツ飛びました。

一年目の観察は、兎に角、蛍光数を正確に数えるのに懸命で、皆さんと「ワイワイ」言いながら、楽しくカウントをしていた様な状態でした。

「府有地入札のお知らせ」昨年十二月初旬の朝刊に「山田西三丁目」の土地が売りに出された！、噂は有ったがイヨイヨか！、ヒメボタルが棲息しているのに！、土地は「生き物達の土地」でもあるのに！、愚かな知恵で開発し生存を脅かし！、挙げ句に、開発の失敗で出した赤字を埋めるのに、また売却し、更に開発をする！、これは「乱開発」でなくて「乱・乱開発」ではないか？こんな調子で開発したら、ヒメボタル達は一溜りもない！、と腹立たしい思いがしました、「オス」の放つ、強い閃光は、種の存続の為の「メス」へのアピールだけで無く、心ない人間の行為に対して警告灯を燈してアピールし、健気に生きている姿の様で、哀れでなりません。

観察は、決められたコースを巡りながら数をかぞえる方法で、野鳥などの観察にも用いられる手法ですが「アッ居る」の声に皆さんワッと集まる、よくよく見れば街灯が空缶に反射してたり、ビニール袋が光っていたりで「探そう」とする意識が強く、何でもホタルに見える様な状態でしたが、それにしても、「夜目にゴミが目立つとは」と、情けない思いがしました。

今年のヒメボタルの出足は、「連休」から始まり、出現数のピークは五月十四日で620匹を数えました、今年もその日が近付くと観察者も増え始め、二桁と成りました、しかし「ヒメ」のお出ましは七日に2匹を数えただけで“0”が続きました、そうなると相手の都合も考えず「気温は？湿度は？」

と、気象状況の記録を眺めては「25°に60%か、もう出てもよさそうに！」とワイワイガヤガヤの毎夜でした。

「今年もいよいよ始まったナ」との思いは、五月十六日に5匹を数えた時でした、昨年より約二週間遅い本格的な出現です、今年は何匹お目に掛かれるか？の期待と、何らかの理由で棲息環境が変わり減っているのではないかと不安で一杯でした、十七日には二桁に、二十一日には三桁と、順調に増え、二十九日には遂に743匹とピークを迎えましたが、やはり昨年のピークに較べ二週間遅くなります。数が増えると、観察する方にも力が入り、「雨が降ろうが槍が降ろうが」と意気込んで出掛け、五月一日から六月二十三日の間、延べ日数五十四日のうち、出来る限り時間の都合を付けて、四十七日も通うはめになりました。

「ピカッ」と光る黄金色掛かった「ヒメ」の蛍光は、「フワー」と青白く光る「ゲンジ」や「ヘイケ」に較べ「厳しさ」の様なものを感じます、その「閃光」に引かれて、一夜じっくり眺めてみようと、定点観察をしました、発光は午後七時半頃、先ず地上で2~3匹が発光を始めます、暫らくすると4~5匹が飛び出し、三十分程経った八時頃になると百匹ちかく乱舞します、飛翔のピークは八時半から九時頃で、同時に200匹程が群れる光景は「スゴイ」としか言い様がありません、疲れが出たのか九時を過ぎる頃より、乱舞は収まりだします、十時を過ぎると急速に減り、十一時頃には時々数匹が思い出したように飛ぶだけで、十二時頃には賑やかな光の乱舞も「ウソ」のように静まり返り、暗やみになります。

ヒメボタルも「カブト虫」と同じ「甲虫」の仲間ですが、「メス」は「飛ぶための羽根」（後翅）が退化して飛ぶことが出来ません、夜になると雑草等の根元の「隠れ家」からはい上がり、発光して「オス」の来訪を待ちます、これは子孫を残すための行動ですが、平安の昔「女性」の所に通う「光源氏」を思い起させ「源氏物語」のロマンを感じます。

「運」よく「メス」に巡り合えた「オス」が、近付くと互いに合図する様に発光間隔を変え、愛が成就し「合体」をすると消灯します、この様に、発光の間隔や強弱を見ていると「光」は彼らの言葉や通信手段の様に思われます、五月二十九日は月夜でした、月光の射す所を避けて、木陰の暗い所を選んで集まり、飛んでいる様子を見ると、当然の事ながら街灯などの明かりは苦手の様になります。

ヒメボタルは吹田市の「千里山田緑地」以外にも、少数ながら棲息している所が確認されていますまた、日本各地に棲息していますが、各地の資料と較べますと「発生する時期や大きさ等」に少し違いがある事が解ります、例えば、発生する時期が吹田では「五月末から六月初旬」なのに、「六月末から七月初旬」の所があったり、大きさは、吹田が「6前後ミリから8ミリ程」なのに「4ミリ程から6ミリ前後」と少々小さかったりと、なぜ此の様に差が有るのか、単なる「地域差」や「固体の差」なのか？と不思議に思うことがあります。

「メス」は「後翅」が無いと行動範囲は狭いと思われ、また、「オス」も2~3mの高度を飛び「ゲンジ」や「ヘイケ」に較べると低いように思います、また、飛翔距離も70~80m程度と言われております、此の様に移動範囲が狭いと、急激な棲息環境の変化が起きると対応しきれない事も考えられます、「後翅」の退化は、他に2・3の昆虫にも見られ、「安住」の地と決まると、起こる現象だそうですが「ヒメボタル」で確認されたとは聞いておりません。

過去二年間だけですが、この様に付き合ってみると、不思議な事など、未知とロマンに溢れるヒメボタルです、天然記念物として、各地で保護をしているのも頷けます、「開発」等の急激な環境の変化で何千年・何万年も生存し続けてたと思われるものを、簡単に絶やしても、良いものでしょうか？、手厚く保護の手を差し延べてやるのも、「乱開発」をした我々の責任であり、一つの文化を築く事にも成ると思うのは「ハマっている」人間のタワゴトでしょうか？、一不勉強をタナにあげ、好き勝手な事を書きました。

NPO講座 1

すいた市民環境会議はNPO法人の取得に向けて努力しようと考えています。NPOとは何か、NPO法人を取得するとはどういうことか、NPO法人を取得するとどうなるのかを幹事会で勉強しています。

会員の皆様にも理解していただきたいと「紙上NPO講座」を今回より開講します。

事務局（文責 小田信子）

NPOは「non profit organizations」の省略で普通「民間非営利組織」と訳しています。

NPOの定義は通常、次の5つの要件を充たすものを言います。

- ①非分配…利潤を分配しないこと
- ②非政府…政府の一部ではないこと(政府から援助を受けていないこととは違う)
- ③組織形態…組織としての体裁を供えていること
- ④自己統治…他の組織に支配されず、独立して運営していること
- ⑤自発性…自発的に組織され寄付やボランティアの要素があること

上記の定義により、西欧では宗教団体、政治団体、学校法人、社会福祉法人、医療法人などを含みます。そのため、NPOはこれらの「公益法人群」と「草の根市民団体群」の二重構造の様相を呈しているといわれています。

「公益法人群」がNPOの定義に入っているのは西欧では、古くから宗教団体がボランティアとして私立学校や病院、老人ホームなどを作ってきた経緯があるからです。

また、国連や生協などボーダーラインの要素を持つものもあります。

NGOという言葉は日本ではNPOより早くから使われていました。両者は同じ意味なのですが、国際的な活動をしているところや、政府から一步おきたいところが「NGO」を使う傾向があるそうです。


さて、日本ではNPO法(特定非営利活動促進法)が98年3月に公布され、大阪府では今年に入ってから認可申請受付をしています。法人格をもっていないNPOにも法人格をあげましょうというのです。

すいた市民環境会議のような任意団体(草の根市民団体)は法人格がないので会の預金通帳を作ることはできません。会計個人の名で作っています。事務所や電話も個人でしか契約できません。


NPO法人を取得すれば会の名で堂々と契約でき、登記できるのです。対象になる活動としては12に分けられています。

- (1)保健、医療または福祉の増進を図る活動
- (2)社会教育の推進を図る活動
- (3)まちづくりの推進を図る活動
- (4)文化、芸術又はスポーツの推進を図る活動
- (5)環境の保全を図る活動
- (6)災害救助活動
- (7)地域安全活動
- (8)人権の擁護又は平和の推進を図る活動
- (9)国際協力の活動
- (10)男女共同参画社会の形成の促進を図る活動
- (11)子どもの健全育成を図る活動
- (12)前号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動

次号につづく



大木と吹田の散策みち



千里山みち

◆日時／9月25日(土) 9:30～12:00 ◆集合場所／阪急千里山駅改札口 ◆参加人数／17人

✍ 古谷 啓伸

この「大木と吹田の散策みち」シリーズの案内を普通は私が務めている。今回は地元に住む松岡さんが案内役を務めてくれたので気疲れしないでゆっくり歩くことができた。

吹田市の東部に住む私にとって千里山は縁遠く、初めて訪ねた所が多かった。

一番強い印象は千里寺の本堂だった。京都御所から関西大学構内、そして現在地と2回の移築でついの場所に落ち着いた。この建造物はまだ築75年である。500年ぐらい後に文化財になってほしいと思った。

次いで、千里山住宅地が印象に残った。沿道の桜並木を車の利便性と家の建て替えのために住民が20年前に伐採したと聞く。一瞬眉をひそめたが、生け垣がきれいで、道にゴミがない。風致地区としての景観を住民が保全しているように感じた。

欲を出して、無人で荒れている「婦人の家」をこの風致地区に溶け込ます活用法を地元住民が考えてくれると、千里山に史跡がまたひとつ増えるのだが。

千里山神社に隣接する上水道配水池の公園計画に関して悶着の説明があった。住民は公園ではなく元の雑木林の再生を希望している。無理に公園にしても誰もが利用しない場所だ。維持費も考慮して雑木林のまま放置するよう、私は陳情しようと思う。

春日神社の静寂な景観を道路建設から守る運動が地元の人々によって続いている。しかし、その横にマンションを建てるための土地の売買交渉が煮詰まっており、防戦一方だ。放っておくとビオトープ持ってこいの池も大木エノキも潰される。景観保全を熱望する新住民を条件交渉に巻き込まなければ景観保全派は不利だ。

一緒に歩きませんか

	垂水みち	正雀みち
日時	2000年1月22日(土)9:30～12:00	2000年3月25日(土)9:30～12:00
集合場所	御堂筋線・江坂駅(千里中央より改札口)	阪急・正雀駅改札口
持ち物	水筒	水筒
参加費	500円	500円

「紫金山公園」に思うこと

伊藤 健一

七尾なる 古きかまあと 出で来しは 難波の宮の 屋根瓦かな 山口 最子

六世紀、難波に宮殿が造営されました。その宮殿の屋根を葺いたのは吹田市の七尾で生産された瓦でした。最近この難波の宮から戊申年（つちのえさる）648年の木簡が出土したとのニュースが流れました。

七世紀の末、桓武天皇は山背国葛野郡宇太村（現在の京都）に新都を建設、平安京と名付けました。新都建設には多くの瓦が必要になり、古墳時代から須恵器生産の実績と難波の宮の瓦生産技術の伝統から、吹田市吉志部の紫金山一帯に大規模な官営瓦窯群を作りしました。

瓦窯の焚口に使われた御影石は、豊能・能勢地域から搬入し、北摂一帯と淀川流域を活用する広い範囲の事業で、瓦を京都に運ぶため淀川の水路と河港の整備もされました。

吉志部の瓦は緑釉を使い、平窯で焼いたあと、登り窯で焼く大変美しい瓦であったと言われています。平安京の朝堂院、八省院など主だった建物の瓦となり、新都の入り口である羅生門の左右の東寺、西寺などの瓦として使われたことが発掘調査で分かっています。そのほかにも吹田市の高浜神社、枚方市の百済寺などの瓦にもなりました。

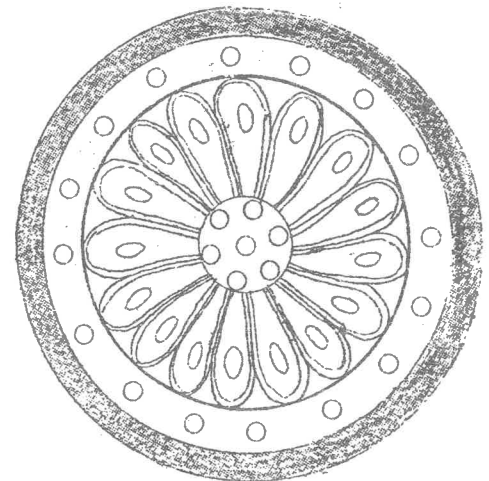
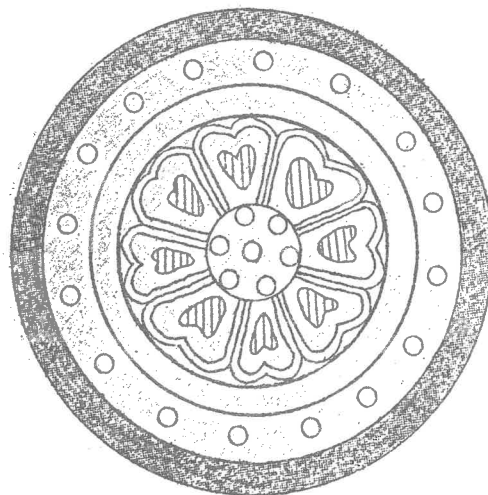
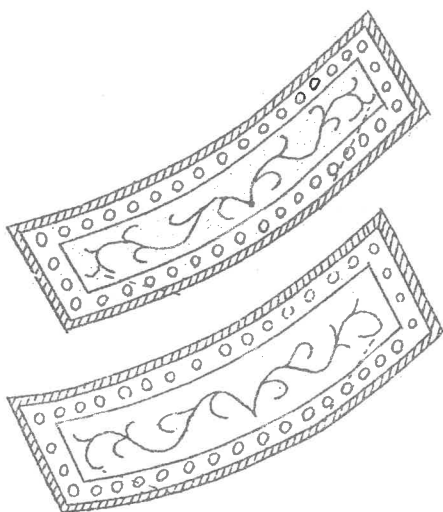
吉志部で使用された瓦の型（=範・はん）は以後の瓦の生産地である、西加茂、栗栖野に運ばれ技術の伝承がされて行きました。

次年度の吹田市の予算に紫金山公園整備事業費として3億1594万円が計上されていますが、古代の文化遺産をどのように保存・保全していくのか、自然と史跡が調和した紫金山公園整備事業を願っています。

吉志部神社の横の登り窯の保存を再考する必要があると思いますが、現状のまま置くのなら、一次土の中に埋め戻すことが最良と思っている。

逝く春や 古事記に残る 里に来て

朝女



複子葉弁文

単子葉弁文

吹田操車場跡でチョウゲンボウに出会う

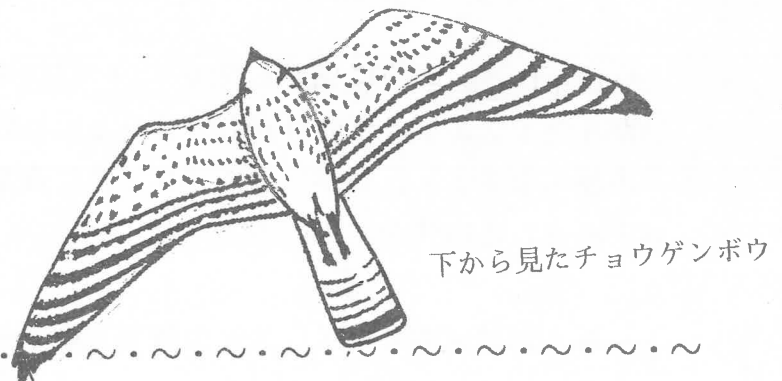
✎ 小室 巧

10月24日のことでした。秋晴れの気持ちのいい青空の日、岸部の「光のひろば」で行われた体育祭でラジオ体操をしていると、空に“なっなんとチョウゲンボウが飛んでいるではないか！” チョウゲンボウは旋回上昇、そして頭上50cmぐらいを東から西へ滑空しコンクリートの建物あたりで見失ってしまいました。

1カ月後、あのチョウゲンボウが気になり「光のひろば」近くまで行ってみました。「光のひろば」は吹田操車場跡の北側に隣接していて、その操車場跡は広大な草原のような環境になっています。そこでハヤブサの仲間の鳥・チョウゲンボウ（体長35cmぐらい）は、ネズミ、昆虫、小鳥を求めて越冬するのではないかと思ったからです。しかし、この日は現れませんでした。以前から、この草原のような環境が気に入っています。又、この環境を生かした利用法はないかと考えています。その環境をチェックしたことも報告します。

線路沿いには、メリケンカルカヤ群落が広く発達し、所々にススキ・セイタカアワダチソウ群落、北側帯状にエノコログサ・オヒシバなどの群落、また真ん中にヨシ群落・クズ群落、高架沿いにアキニレ・キリ・アカメガシワ・ノイバラ・ピラカンサなど低木林があります。ぬかるみや小さな湿地もあり、この日はアキアカネがぬかるみで産卵をしていました。

追伸 11月27日 大木散策「千里丘みち」での事
吹田操車場跡内殉職碑の説明を受けているとき、
チョウゲンボウがカラスに追われながら飛んでい
ました。3羽確認しました。『この冬チョウゲン
ボウはこの近辺で越冬する』と確信しました。



投稿を受付けます！

皆様の原稿を受付ます。
日々の環境への思い、取り組みなどを文章にして
送ってください。
規定 A4-1枚 完成品でお願い致します。

送付先 秋山 こずえ宛 〒 565-0805 大阪府吹田市清水 11-1-817

容器包装リサイクル法実施について

✎ 秋山 こずえ

大量廃棄社会から循環型社会への移行は、人々の意識・行動の中においても、企業や行政の取り組みにおいても確実に動き始めている。

大量生産・大量消費は今や生活の豊かさのバロメーターではなく、ゴミを作らないライフスタイルに豊かさを見いだす感性が育ってきている。

容器包装リサイクル法は、2000年4月から完全実施されるが、容器包装の定義は、「商品が消費されたり、商品と分離された場合に不要になるもの」となっている。では、現在回収されていない食品トレーやカップ麺容器、その他発泡スチロールなどの梱包材、台所洗剤・シャンプーのボトル、御菓子などの外装フィルム、野菜や果物のネット、アルミ付飲料用パックなどなどはどうなるのか・・・？

事業者のいっそうの再商品化技術の開発に期待したい。

では私たち市民はと問われると、分別排出を徹底する意識が必要である。が、種類が多くなると分別も難しい。回収できる容器包装と、できない物が一目でわかる工夫があると一層分別しやすいと思えるが。

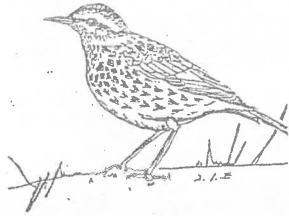
吹田市は、全国的に見ても資源ゴミの回収率が高いと聞くが、行政の努力は言うまでもないがリサイクルプラザの存在も大きいと思われる。

市民・事業者・行政が協働で『ゴミになるものを作らない』という意識と姿勢が今以上にもとめられる時代が来ているようだ。

◆ 容器包装リサイクル法の概要 ◆

正式名称；容器包装に係わる分別収集及び再商品化の促進などに関する法律

容器包装リサイクル法は、増大する廃棄物の適性な処理や資源の有効利用を目的とした法律です。一般廃棄物の中で大きな割合を占め、再生資源として利用できる容器包装を消費者が分別排出、市町村が分別収集、事業所が再商品化することを定めています。そしてこれらを促進するための新たなシステムの導入によって容器包装の減量や再生資源としての利用に積極的に取り組むことが述べられています。



《 吹田市の鳥 NO.12 》

ツグミ(鶉)

ヒタキ科

赤く黄色く錦に彩られたケヤキの梢から、渡ってきたばかりのツグミが「クイクイツ」と鳴き交わす声に、秋の深まりを感じ近づく冬の鳥の楽しさを思い出させてくれる。

ツグミは体長24cmとムクドリとほぼ同じ大きさで、顔に白い眉線があり、上面は頭から尾まで黒褐色(～赤褐色)で、下面は白色で黒褐色の斑点が特徴的な鳥である。

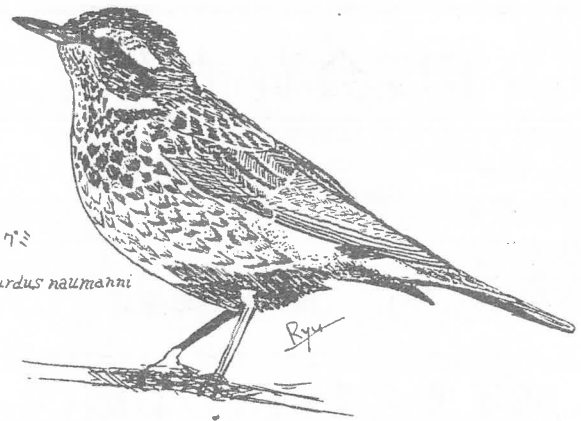
ツグミはシベリヤ中部の亜寒帯で繁殖期を過ごし、冬が近づくと日本や中国に渡り越冬する鳥で、大阪近郊では11月初めに姿を見せてから翌年5月ゴールデンウィークまで、6ヶ月間ほど滞在していく。渡ってきた当初は木の上にいることが多いが、正月を過ぎると地上で過ごす時間が多くなり、胸を張って数歩歩いては立ち止まるツグミ特有の行動が良く観察できる。

ツグミは冬鳥として大阪近郊に普通にいて数も多いので、吹田市内でも住宅地・公園、そしてグラウンドなど至る所が観察適地となる。

ツグミは木の実が好きな鳥でカキや、液果と呼ばれている色のついた木の実ピラカンサ・トウネズミモチや、堅果と呼ばれているナンキンハゼ・ハゼノキなどの実食べる。木の実がなくなると、地上に下りて芝生や落ち葉の間に隠れている虫やミミズを探すようになる。

ツグミは昔から焼き鳥の材料とされていたため、日本到着後の移動のコース、北陸～東海にかけての丘陵地で、林の中に架けられたカスミ網により一網打尽に捕獲されてきた。カスミ網による狩猟が禁止されているにもかかわらず、今でも数十万羽(～数百万羽)のツグミが密猟されているとのことなので、吹田市内で観察できるツグミは密猟の魔手から逃れることのできた幸運の鳥だと思えば、複雑な気持ちになる。

さて、冬は木の葉が落ちて鳥が見やすく北国から渡ってきた冬鳥も多いので、バードウォッチングに最適な季節である。木枯らしの吹く冷え込みが厳しい初冬の日、ツグミを中心とする冬の小鳥(ジョウビタキ・シメ・シロハラ)やカモの仲間(マガモ・コガモ・キンクロハジロ)との出会いを楽しみに身近な公園を歩いて見ませんか。



99.11.5 平(ヒラ)軍二

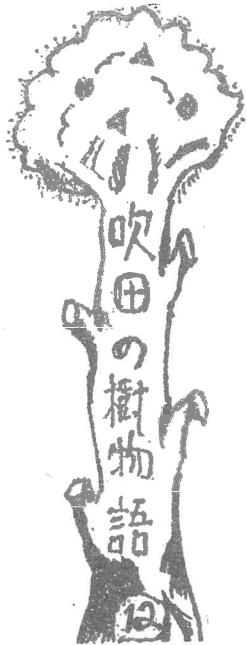
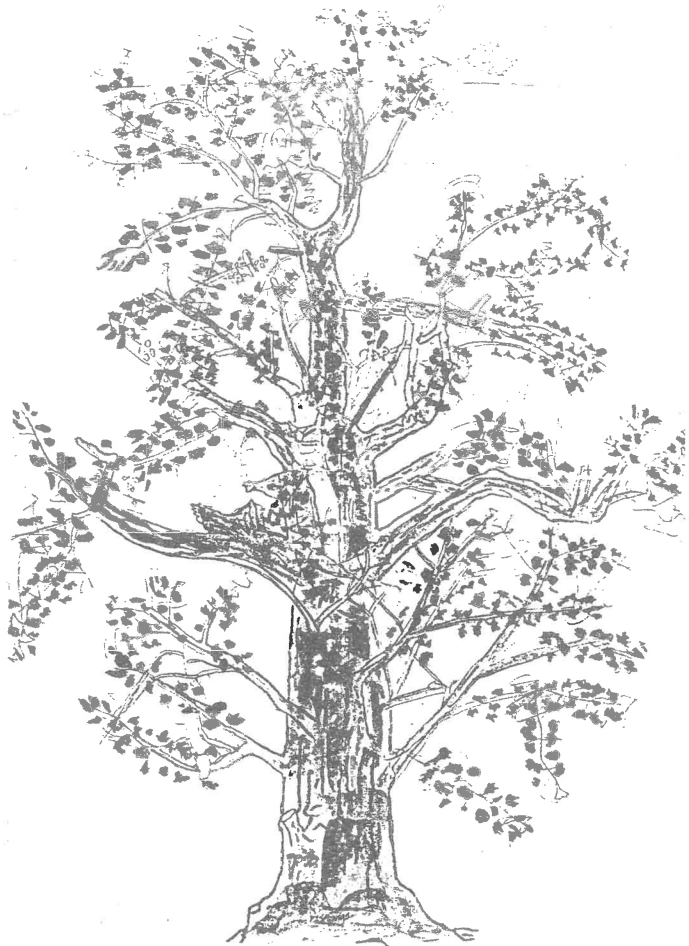
くせいじ
《内本町・弘誓寺のイチョウ》

中国原産で、中生代から地球に存在したといわれるイチョウは雌雄異株。巨樹となり天然記念物に指定されることも多く、吹田では内本町・高浜の他千里山・垂水町・出口町にそれぞれ少ないながら集中して残存している。

また、これらの地域には大木古木などの緑の他、一部に古い町並みや社寺、史跡が残り魅力ある景観を止めている。

- ◆樹 高 19.5m
- ◆幹回り 2.1m
- ◆樹 齢 400年

✎ 浅田 都司男



99年度会費納入者 (敬称略) 99.11.15現在

個人会員

中松美智子 有田 亮一

法人会員

西村印刷(株) (株)井上昇商店

99年度会費納入のお願い

すいた市民環境会議・会報は、会員の皆様の会費のみで作られています。未納の方は同封の振り込み用紙で、至急お振り込みください。よろしくお願ひ致します。

会報誌担当からの登録お願ひ

すいた市民環境会議・会報誌作成ボランティアに登録してください。

☆ 編集をしてみたいと思っている方

☆ 封入作業ならできるとおられる方

ご一報ください。詳しい作業日程表をお送り致します。

よろしくお願ひ致します。 秋山 ☎&FAX 06-6877-0879(留守番電話可能)